

entry-2751.html (2017年9月12日アクセス)

フッカー S, 2017. ハラアカクロテントウ. 鞘翅目/テントウムシ科. 東京23区内の虫2. <http://tokyoinsects2.blog.fc2.com/blog-entry-2001.html> (2017年9月12日アクセス)

金 鐘国・森本 桂, 1987. 日本新記録のテントウムシ *Rhyzobius forestieri* とその生態. 日本昆虫学会第47回大会講演要旨: 35.

金 鐘国・森本 桂, 1995. ハラアカクロテントウムシ *Rhyzobius forestieri* (Mulsant) の生態に関する研究 (コウチュウ目: テントウムシ科). 九大農芸誌, 50 (1/2): 45-50.

日本環境動物昆虫学会編, 2009. テントウムシの調べ方. 148 pp. 文教出版, 大阪.

佐々治寛之, 1992. 日本から最近新しく追加されたテントウムシ類. 甲虫ニュース, (100): 10-13.

(伊藤 淳 183-0012 府中市押立町 5-1-25)

(阪本優介 252-0001 座間市相模が丘 1-27-22)

ルネ小田急相模原 モア・ステージ 1201)

【短報】キバネアラゲカミキリの成虫を晩秋の野外で採集

キバネアラゲカミキリ *Anaesthetobrium luteipenne* Pic, 1923 は, 本州 (西部), 九州, 対馬, 朝鮮半島および中国東部に分布するアラゲカミキリ族のフトカミキリ類で, クワとヤマグワ (クワ科クワ属) を寄主植物としている. 成虫は6-7月に出現し, 飼育下でも新成虫は6月下旬に羽化脱出する (長谷川, 2007). 筆者のうち伊藤は, 以下に示すように, 晩秋に野外で複数の成虫を採集しているので報告する. 採集個体は, 河川敷に生えているヤマグワの根際に積んであった, 枯葉のついた枯枝を叩いて得られたものである. 11月中旬という本種にしては異例に遅い記録であるにもかかわらず, 体表の被毛が完全にそろう新鮮な個体であった. また, 採集状況からみて, 後食などの活動を行っていた

可能性も高い.

2exs., 京都府八幡市河北公園, 16. XI. 2015, 伊藤建夫採集 (伊藤・新里標本保管).

カミキリムシのなかにはきわめて少数派ながら, 秋に野外に新成虫が現れ, そのまま越冬して翌春以降に繁殖活動を行うものが知られている. そうした生活環は, フトカミキリ亜科のアカガネカミキリ族とコブヤハズカミキリ族の構成種, タテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides* Thomson, 1864 (ドウボソカミキリ族) とマルクビカミキリ亜科のケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* Hayashi, 1972 で観察されていて, サビカミキリ族とアラゲカミキリ族 (ともにフトカミキリ亜科) の一部でも, 野外で越冬中の成虫が確認されていることから, 同様の生態をもつ可能性が示唆されている (新里, 1979; 高桑, 2013).

カミキリムシの越冬は幼虫か成虫のいずれかのステージであるが, 後者の場合でも通常は植物体内の蛹室で行われる (新谷, 2015). 長い冬を蛹室に留まらず野外で凌ぐのは死亡リスクが高いように思われるが, あえてそうしなければならない理由として, コブヤハズカミキリ類では晩夏から秋に豊富な枯葉を後食して, 越冬明けまでに生殖器官を成熟させるためではないかという仮説も提唱されている (高桑, 2013).

今回報告したキバネアラゲカミキリの採集個体は, 秋になって野外に羽化脱出したものか, 初夏に発生した個体がいったん休眠した後に再び野外で活動をしているのか推測の域を出ない. しかしいずれにしても, 本種の成虫が秋季に野外で活動する生態を裏付ける観察例として, たいへん興味深いものといえる.

引用文献

長谷川道明, 2007. フトカミキリ亜科アラゲカミキリ族 (種の解説). Pp. 616-631. 大林延夫・新里達也 (編), 日本産カミキリムシ. 818 pp. 東海大学出版会, 秦野.

新里達也, 1979. クモノスモンサビカミキリの成虫越冬場所. 月刊むし, (100): 42.

新谷喜紀, 2015. II. フトカミキリ亜科のカミキリムシ類の行動と休眠. 6. キボシカミキリの生活史と休眠. Pp. 186-224. 岩淵喜久男 (編), カミキリムシの生態. 389 pp. 北隆館, 東京.

高桑正敏, 2013. 非武装地帯の崩壊がコブヤハズ群にもたらしたもの. Pp. 191-236. 新里達也 (編), カミキリ学のすすめ. 309 pp. 海遊舎, 東京.

(新里達也 185-0021 国分寺市南町 1-14-35)

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳 7 E12-102)

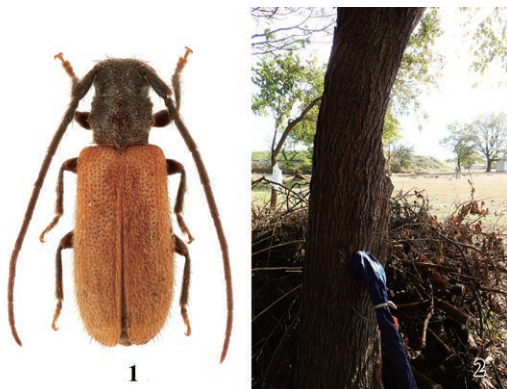


図1-2. 晩秋に野外で採集されたキバネアラゲカミキリ成虫 (1) と採集場所 (2).